

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふぁんたす		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		2024年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験のあるスタッフが多いことに加え、研修の機会も確保しており、スキルアップを図っている。	研修の案内を行い、参加希望があった場合には可能な限り勤務調整をして参加できるようにしている。自主研修制度があり、主体的な研修参加を後押ししている。学習支援の勉強会を企画して行い、学んだことを提供する支援に活かしている。	全体のスキルアップのために、研修に参加した時には、事業所内で共有する機会を持つ。また、自分たちで必要な研修や勉強会を企画して行っていく。
2	チームワークを意識した活動プログラムを取り入れており、児童の自主性や主体性、協調性を引き出すことができるよう取り組んでいる。	運動やクッキングの活動で、グループに分けて、リーダーを決め、みんなの意見を聞いて取りまとめたり、進行したりする機会を設けている。チーム内で協力することで得られる達成感や満足感を大切に支援している。相手を気遣う姿や頑張っている行動など良い面を見逃さないようにして言葉で具体的に評価している。	活動の企画など普段から児童の希望や意見を聞いて、取り入れられるところは取り入れて、自分の意見や提案が受け入れられる体験により、より、主体的な参加ができるようになっていく。
3	要望やニーズに合わせた個別対応を行っている。	不登校状態の児童や、家庭の状況で支援が必要な児童に対し、個別対応を含めた支援を組み立てて対応している。相談支援事業所との連携も密に行うようにしている。また、集団活動ではなく、個別活動を希望する場合において、中学生以上を対象として、対応できる時間を確保している。	他の機関と連携を取り、繋げていけるようにする。放課後等デイサービスは高校生までが対象のため、将来のことも見据えつつ、今、すべきこと必要なことを考えて支援を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ個々のマンパワーに頼っている。	活動内容の大枠は決まっているが、運動プログラム、学習課題の準備など細かい内容は、それぞれのスタッフの知識、技術、力量により保たれている。全ての活動にマニュアルがあるわけではないので、誰に代わっても同じ内容が提供できるわけではないことが課題	法人内でのスタッフの異動に関しては、保護者からでもできるだけ同じスタッフで続けて対応してもらいたいという要望も聞かれるので、配置換えは慎重に対応する。全スタッフのスキルアップを図り、技術を上げていけるように、学習支援や運動活動の勉強会を行っていく。
2	建物の構造上、音が反響しやすい。騒がしくなりやすい。	個室もあるが、活動室はワンフロアで仕切りをしているので、音の反響があり、同じ時間帯に遊んでいる人と勉強している人がいる場合、特に音の影響を感じやすい。	イヤーマフの使用や個室の使用を提案し、落ち着いて集中できる環境を提供する。
3	利用時間内の多くを設定活動が占めており、活動が詰まっている、時間に余裕がないことがある。自由時間や余暇時間が少なく、利用終了時間のギリギリまで活動を行っていることがある。また、終了時間が決まっており、お迎えの時間が重なるので、保護者の方を待たせることがある。	できるだけ、短時間で充実した活動を提供したい気持ちがあるが、スタッフに余裕がなく、遊ぶ時間もギリギリまで遊ばせてあげたい気持ちがあり、終了時間が押ししまいがちになる。	曜日ごとでグループ分けをしているが、疲れやすく、下校後にゆっくり過ごしたい児童が多い曜日グループは活動時間を短めにしたり、切り替えに時間がかかる児童が多い場合は、早めに終わりにするなど、柔軟に対応していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 2025年3月15日						
ふぁんたす		利用児童数 59			回収数 34			
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32			2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	5	1	4	教室の中に入って確認してないため	2階にあり、裏口からの階段に昇降機があります。建物内はバリアフリーです。必要に応じて視覚支援を取り入れていますが充分ではないかもしれません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34				個別学習など大変助かっています 先生方が子どもの事をよく理解してくださっているので助かります。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31			3		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34				とても参考になった。得意なことはよりのばし、不得意なところは底上げできるように頑張りたいのでご指導よろしくお願ひします 長期休みの時など特別な企画で社会見学などさせてもらって助かっています。忙しい親の子ども考えてくださっていると感謝しています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32	1		1	わが子に合った支援方法を教えてください 頑張り力を育んでもらっています。おかげで成長をととても感じています。いつも寄り添ってもらい感謝しています。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	1		3	できなかったことができるようになって いる過程が楽しい	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	7	7	12	交流があるのかもしれませんが把握して いません	意図的な交流の場は設けていません。公園遊びなどで関わることはあります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33			1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	6	1	6		情報提供はプリントを配布することはあります。研修の案内について、掲示していますが、個別にご案内はしていません。今後考えて行きたいです。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	33	1			毎回きちんと説明して下さいます	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34				とてもよく話を聞いてくださるのでありがたいです	
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	7	5	10		マラソン大会の以外の親子行事の企画が今年度はできませんでした。来年度は実施できるよう検討して行きます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32			2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	33	1			気持ちを言葉で説明できない(苦手)子供なので言えないことが多いです。もう少し気持ちを伝えられるようになるというなと思っています。	意志を伝えることができなかつたり苦手だったりする場合に、伝達方法を工夫したり、気持ちに寄り添ったりしながら、分かってもらえたと思ってもらえるよう対応していきたいです。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	33			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	3		4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	2		6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	33	1				
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	2		2	事故等を経験していないので分かりません	怪我があったときには連絡し、必要があれば通院の対応をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34				とても楽しみにしています。小学校に通うモチベーションが維持されています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	1			たまに怒られたとも聞きますが大好きなのは不変ですごいなと思う。毎週ものすごく楽しみに通っている	
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	1			指摘が的確で参考になる。いろいろと教えてください。とても満足している/大変満足しています 親身に関わっていただき、本当にありがとうございます。今後ともよろしく願います。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ふぁんたす				公表日		2025年3月15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準よりも広いスペースを確保しています。	運動スペースがもっと広い方が望ましいですが、公園遊びや体育館を利用する機会を持つなど工夫していきたいです。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準に基づいて配置しています。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		正面玄関でない方の階段に昇降機を設置しています。フロアはバリアフリーになっています。	活動室の音が反響しやすいです。うるさい音が苦手な人は個室やイヤーマフを提供して対応しています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔を心掛け、毎日清掃しています。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室の使用は自由にできるようにしています。希望に沿って配慮しています。	個室として使用できる部屋は相談室を含めて2部屋です。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		人事考課制度を導入し、常勤スタッフは目標設定、振り返り、面談を行い、スキルアップ、業務改善に取り組んでいます。また、事業所会議で意見交換して業務改善に努めています。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケート調査を実施し、意見や要望などを確認しました。今後の業務、支援の改善につなげて行きたいです。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面接を年2回行っています。会議や日常活動の振り返りでも意見を伝える場はあります。	全スタッフがお互いに意見を言いやすい環境になっていければ良いと思っています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在は行っていません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資質向上のため等の研修について、参加の機会を設けています。また、自主研修制度を設けており、研修会の案内をして、参加を勧めています。	支援時間にスタッフを確保するために、希望する研修全てに参加することは難しい状況があります。時間や気持ちにゆとりがないこともあり、自主研修制度の利用は少ないのが現状です。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度から支援プログラムの公表が義務付けられており、予定通りに公表します。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		契約時に保護者にフェイスシートの記入をしてもらい、また、状況等の聞き取りを行い、ニーズや課題の把握に努め、支援計画に反映させています。個別面談などで子どもの様子を共有し、ニーズや課題を把握して支援計画に反映させています。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成のための会議を行い、全てのスタッフで検討しています。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフ間で共有し、計画に沿った支援が提供できるよう努めています。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		初回利用の前に、ヴァインランドⅡを使用して保護者に聞き取りを行い、適応行動の状況を知り、個別支援計画に反映させています。日々の行動を把握しスタッフ間で共有して、対応を協議しています。	ヴァインランドⅡによるアセスメントを十分活用できているとは言いきれない所はあります。対応が十分でない場合もあります。			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」について、支援計画において、目標や支援内容を設定しています。	これまでの支援計画には含まれていなかった「移行支援」や「地域支援・地域連携」が適切になされるように努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフ間で意見交換する機会を持ちながら、活動プログラムを作成しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定して行う活動もありますが、クッキングメニューや運動や遊びの内容をスタッフで協議して行っています。長期休暇中には外出や野外活動、昼食の調理などを取り入れています。子どもの意見や提案を取り入れるようにしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもたちそれぞれの課題に沿って、支援計画を作成しています。学習やソーシャルスキル学習等の個別活動と運動、クッキング、遊びなどの集団活動を組み合わせて支援計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		受入れの準備をしながら、打ち合わせを行い、内容や役割分担などについて確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後、振り返りと記録整理をスタッフ全員で行い、気付きや次回への向けての確認事項などを共有しています。子どもの姿で課題だけでなく、良かったことを共有できるように意識しています。	平日、長期休暇ともタイムスケジュールがあり、グループ活動、個別活動を組み入れた設定活動を行っています。長期休暇中には外出活動や昼食の調理など、普段にはできないことを取り入れています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ケース記録、業務日誌、日案、振り返りを日々記録し、次回の支援に生かしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に1回、モニタリングと支援計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自立支援、日常生活の充実のための支援、社会体験、調理、余暇支援、機能訓練などを組み合わせて支援しています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択、自己決定を大切に支援しています。買い物活動、おやつも目的の中に選択と決定が含まれています。その他、意見を出し合って決める場面も意図して設けています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者又は、子どもの状況を把握しているスタッフが参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携を取るようにしています。	主治医と直接連携を取るケースは限られています。保護者を介して情報共有することの方が殆どです。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		電話連絡にて必要な情報共有を行っています。行事や下校時間については保護者を通じて確認していますが、ホームページを参考にすることもありました。授業見学や送迎時等に情報共有する等して連携を取っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		児童発達支援事業所と連携を取り、情報共有しました。今後も連携を取っていきたくと考えています。	保育園や幼稚園と連携を取ったケースはありませんでした。必要があれば連携を取っていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	○		移行支援会議に於いて利用時の様子や支援内容、課題、対応方法などについて情報提供を行いました。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			研修の機会があれば参加を検討します。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		意図的な交流は行っていませんが、公園遊びなどの活動で、一緒に遊ぶことはあります。		

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	参加はしていませんが、福山地区放課後等デイサービス連絡協議会の代表者が参加しており、情報提供は受けています。	引き続き、情報共有できるようにしていきたいです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		○	迎えにこられた時や送迎時に状況を伝えるようにしています。課題や心配ごとなどがあれば、連絡帳に記入していただいたり電話やLINEで連絡を頂いたりして、共通認識を持つようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	支援方法や保護者向け研修会などの情報提供を行うようにしています。	ペアレントトレーニングは行っていません。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	契約時に資料をもとに説明しています。	一度に多くのことを伝えるため、十分伝わっていないことがあるかもしれません。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	半年ごとに事後評価を作成し、保護者に説明した上で、意向や希望を確認しています。保護者を通じて子どもの希望を確認することもあります。普段から意見や希望を聞く機会を持つようにしています。	子ども自身が、自分の思いや希望を言葉で表現することが難しい場合が多いので、引き出したり、涙み取ったりしていく力が求められると思っています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○	作成した個別支援計画を示して、支援内容などの説明を行い、同意を得ています。	お迎えに来られた時や送迎時に説明することが多いので、十分な説明ができていないことがあるかも知れません。できるだけ丁寧に説明するように努めます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	相談があった時には電話や面談で話を伺い、できる範囲での助言と支援をしています。相談しやすい場所となるよう心掛けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	昨年度は保護者参観日を企画し、交流の機会を持ちましたが、今年度はできませんでした。1度だけ、参加者は少なかったのですが、他の運動教室主催のマラソン大会に保護者と参加する企画を行いました。	来年度は、保護者参観日を企画したいと思っています。一度に全員が集まることは難しいので、3グループに分けて実施できたらと思っています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	苦情解決体制を整備し、重要事項説明書に記載し、契約時に説明しています。苦情があった場合には適切に対応していくことにしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	事業所の通信を年4回、法人の会報を年4回発行しています。活動予定は毎月配布しています。行事がある時には案内を配布しています。公式LINEにて活動の様子を発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	個人情報の管理には十分注意しています。写真や名前の公開については、『個人情報の取り扱いについての同意書』を交わし、その内容に基づいて配慮して行っています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	必要に応じて構造化や視覚支援を取り入れ、わかりやすい説明を心掛けています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	来年度は法人全体で、地域の方に来ていただく行事を企画準備中です。	事業所独自では地域の方に参加していただく行事を行っていません。法人全体の行事として取り組んでいきたいです。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	災害時、防犯、感染症、急変時等の対応を「緊急時における対応について」と題した文書にまとめて、保護者に配布しています。また、その内容をスタッフ間で共有しています。災害を想定した訓練は行っています。	マニュアルについて、修正が必要な箇所がないか再確認して、再度配布したいと思っています。事故や防犯の訓練は行っていませんので検討したいです。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	火事の退避訓練、地震、津波の場合の退避訓練を利用児童と一緒にしています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○	服薬やアレルギー、てんかんについてはフェイスシートに記入して頂くようにしています。	予防接種の確認はしていません。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	フェイスシートにアレルギーについて記載して頂くようになっています。また、保護者からの指示により対応しています。	医師の指示書を頂くようにはしていませんが、検討したいです。保護者からの情報提供、指示による対応をしています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		安全計画を作成し、安全管理を意識して支援を行っていますが、研修や訓練はまだ十分とは言えないので、今後取り組んでいきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	災害時の連絡方法などについてはお知らせをしています。	まだ周知が充分とは言えません。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	ひやりはつと事例報告書を作成し、その都度、対応や改善策について検討し、共有しています。また会議において再確認しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	法人内で研修を行っています。虐待防止委員会事業所部会を開設し、定期的に会議を行っています。身体拘束的適正化のための会議や研修も行いました。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	重要事項説明書、個別支援計画に身体拘束を行う場合について記し、説明しています。基本的に身体拘束は行いません。タイムアウトとして落ち着くために別室で過ごすことはあります。どういう状況で行うかスタッフ間で共有しています。外から鍵をかけることはありません。	